



6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2 3 4 5 6

15  
1386  
10



玉徳間の巻



花め寄九



やうのくらう。うつゆて。ちうめむり。本。本。あくらう  
あくらう。と。一。せよ。野。か。の。き。み。が。く。ハ。か。う  
ふ。く。お。や。ほ。ど。わ。か。う。う。と。ゆ。し。思。ひ。か。う。き。ぎ。か。う。  
ゆ。か。う。き。み。か。う。や。山。か。う。や。む。の。か  
む。う。き。う。れ。を。て。ゆ。の。を。め。か。う。つ。を。め。か。う。か。う。

今様合

百練抄小。嘉安四年九月一日。於太上法皇御所。法住

○あらわす

○

寺殿有今様合事撰定堪能輩冗人十五箇夜間毎夜一番被決雌雄師長資賢等卿為判者十三日仙洞今様合之次有御遊上皇令歌今様給希代之美談也。

春日社みびぐれを廻廊小造り

同書小治承二年五月廿日春日社今度修造之時改瑞垣可造廻廊之由衆徒進奏狀依申請被宣下せ畢而社家依有申旨被行御ト之處官奏共不快之由申之而衆徒申云不可依ト吉凶仍被問諸卿猶祈請本社可有覆推之由定申之遂改瑞垣造廻廊

と弓も入り官奏内奏字ハ寮を誤ひやかるべし官ハ神祇友寮も陰陽寮心もそろ従ふねどくへ思ふもぞくも神社乃つくりばん以てのとハからうじきゆうやどあくちかくもととえはトぬきゆき神の神むかふうとふもちとがうどかくすふほしめんうとくまづひ乃まうとハせんとじやうきよどりうどく

欢舞御殿造立之傍見

同書に建保五年正月十日上皇御移徒水無瀬殿新御所是本御所去年大風洪水之時顛倒流失之間更點他所被造営也十二日自水無瀬殿還御

新勅撰集めいし

同書か文暦元年十一月九日中納言入道卿定家於前關白家搜覽新勅撰ヨ先院御時被奏覽一兩殿下監頗有用捨事被切弃百首云々又有被入之人云々

みちむくの因いんと

傍奥乃田植うつておもほび人の弓をも。赤十郎。行まひ人をひのあとうゑどが。あつとうあらぬ。ちやうおや。かくもむか八鳥鳥。しのくもくらうと。むくと起たうる小う。喜のう。上の町め一みまうち。さうとそりと。引うんで。そくとかくべいぢや。なへう。種きふふがう。ヤシと。ゲ。ざれう

美度ヒロをやうせ。あとよやきや。皆あーね。美度ヒロをやうせ。  
苗ヒナせや乃草ハサウエ。ちをば何とまへづ。巻拂ハラフス。十歩きまへづ。た  
くく縁ハシとまへづ。終も。終も。一みまうち。生も。木ね  
も行ハシム。白かひの桃子挂ハシム。因イニ。いもあみ松。いも。一  
の枝ふ。うるうる草ハサウエをうきて。草ハサウエうち。入ハシム。足ハシ。  
うち。金ヒラが九。一つを。う。金ヒラがよか。ハツ乃ち者といも。う  
よ。う。の田ハシム。魚の田ハシム。し。魚の。金ヒラが七。セ。う。か。ハ  
う。う。立ハシム。ちを。底ハシム。まへ。い。杵ハシム。ナ。お。女ハシム。三。ナ。三。人。  
三。ナ。三。人。乃。ち。中。で。ハ。ジ。經。が。同。か。ほ。く。旅。人。経。あ。ぐ。れ  
ト。上。海。田。が。先。ふ。つ。く。旅。び。と。登。上。り。日。波。え。と。バ。寺。

まふやうりへ。金のひもらのあそびよ。金つらひりとまひが椀  
を行具さうへと百三具持てて。金つらひりとまひとが。あけく  
まふちふく。ソシヤニウめ列わます。もみひをすゑあそび。  
曲。簾食へのぞむそり、きりかくまつらう。男よりても  
じぶんからとば。なまされう。あふあらじがまうめい所の館<sup>ヤカタ</sup>を。二階  
作りせハツシのみじのそり。せきて。二階づらせハツシ。簾  
食の津のゆうとめ。百みやの竹のす。百みやの竹のす。  
ひやうぬ新とみよべ。タ著。タ著ふせくえき。あ田<sup>タダ</sup>せ  
がよよく。さよゑう。かうじやとや。車やたせん。百方余人乃  
ま中<sup>ミヨコ</sup>と。うちきとの簾及。みの竹をに。た簾が簾及。

上うとう。上うとうめ、うんそをみ、作もきんてふからくね、ま乃  
みうでむくへやそ、ほもきんてふうきるか、筆の上でやあが叫び、お  
ひめやうが因の外。

正堂正寢

百練抄少久安四年閏六月十五日諸卿於殿上定  
申諸道勘申ス云々正堂正寢指スニ何物哉更正堂大極  
殿正寢小安殿之由師安勘申ス而内大臣正堂大極  
殿也正寢小安殿之條無ナシ所見之由被ル申サ

同書記。應保元年十二月十六日以無品內親王。嘗

為八條院伊通公申狀。帝王養母之儀元始自延喜事也。所謂溫子九條也。貴為皇后。寬平法皇令申。無先例。仍不可然之由。給然而不可依例。令存母儀。給之由。被仰之女院。始自東三條院。院号貴於后。將賤欽之由。可被問法家。小一條院。元東宮也。而院号之後。可為三宮。下之由宣下。太上天皇者別也。只院号更不可貴於后位事也。

裾の毛とけ

同書云。寛喜三年五月六四日。若宮御百日也。今日出仕人。く。裾寸法事。内く。為頭。中宮亮資賴。朝臣奉

行被仰下。大臣八尺。大納言七尺。中納言六尺。參議三位五尺。四位已下四尺。

りくかく

新撰字鏡小。餉寄食也。毛良比波牟。ト。行被。信毛。物を。リ。給。ム。ソ。シ。シ。ア。ト。ア。ハ。食。小。の。ミ。ト。ム。シ。メ。

サ。リ。ア。ト。ム。ア。ト。ム。ア。ト。ム。ア。ト。ム。ア。ト。ム。ア。ト。ム。

茶椀

延喜民部省式。年料雜器。長門國。ト。進。る。物。の。中。み。茶椀。大口。徑各二。五寸。五寸。茶碗。そ。づ。し。

大野の石佛

初物トナリ。伊勢名張へゆくわひどぶ。大野寺トリ。ふいとく  
ヤマ太きやう石か。佛のくらみで。もと行り。承元三年三月七  
日。上皇御幸長谷寺。并宇多郡内大野石佛。と。行る。  
此ヲアレシ。上皇ハ後鳥羽天皇也。

みやうね

武能タチヨリ。とソノ管絃の上。一の入乃作サム。よみて。時光とソノ  
リ。並みに。うり小ゆく。そ。もやうぶ。おて。うきが。あ。ト。ゆ  
き。薄。當。絶。ト。ア。ト。も。みやうね。が。名。薄。と。うて。を  
づき。ト。ソ。物。シ。物。ト。名。能。ト。も。あ。る。

もよろみて令と。ソ。詞

古傳。か。人の。う。ゆ。も。か。み。く。形。を。ゆ。く。立。を。し。や。ひ。ね  
ど。つ。そ。中。ま。や。ち。ゆ。う。セ。を。お。く。せ。ゆ。か。み。ど。ん。記。録。ぶ  
ち。ど。れ。ち。令。行。給。念。立。給。を。ど。ち。此。も。ぐ。ひ。り。令。と。ふ。こ  
そ。ば。い。く。ゆ。く。ハ。だ。く。さ。る。と。や。く。方。葉。ナ。四。叶。上。葉。も。う  
か。安。思。布。麻。之。牛。奈。と。う。ハ。べ。く。え。づ。し。か。の。集。乃。う。の  
う。化。も。う。あ。く。ゆ。か。ひ。あ。と。い。づ。ほ。し。

かく。三。幅

かく。み。う。み。と。ソ。詞。保。元。物。経。ト。ア。レ。モ。

書。出。一

お詫び申のをか。書出とひて。又やう。今商人の來  
ひつて書かしも。かどりうか。おまごべ。

かません

今暮る。もがひきしとひてば。僕等はふ。おごゆべ。  
みせしきてぞよくゆむとひき。

伎藝あらましよふ

口事ふ。花毬をいたのはあり。巣鴨をうちうりのどと。  
あそくえーあきぬつうーうづいづくらふいと。ぬきぬ  
ぬきぬきぬきぬきぬき。ほうじりまゆるねど。因のくそ。  
ぬうじぬくもあくねく。併駕ち支え條大支をぐりふ。もぐれ

うる人ぞもひうとく。とぞう。今せす小猿樂のやの伎  
藝ふも。大夫とひし。おかる。行まつて。ゆきよくゆりう。

朝所

朝所を。もうハ行いとし。うらと。中勢内宿日記  
かハ。あーとぞうと。あくかきうと。行く。お役かわいと  
とハ。うき。ふとい。ソカモ。んをうすも。お便のつむ。

柿の本栗の本

二條良基公め。さよけ。おとつゆうひもく。後ちね院  
の房代みハ。トに連うけよとをバ。柿の本れ。おづき。地。  
うき連うをば。栗の本のえと。おづけ。も。おづき。

かごとひよあめの名

今川貞世が鹿苑院義満らを軍め、巖嶋詣の記めは前の  
湾のま店めもそりとよ。かご少てはねうへうせぬつと  
いとく。

桃花坊のゆきぐれむのす

應仁のみどりか一條義良あとひ桃花坊の支庫やきて。  
せあとゆきゆみうりは盜賊ぞしもうちくさうとて七百餘  
合めをも乃ちみうを引ちしし大政を反古とすくとし  
く。ばあやうの行祐かの市あかせぬつり。みどりすけを  
ざうすくせんとよつよし。そもく七百飯合め書る。

びくす千をともかりて三万五千飯合のゆきし

玉津嶋の神

あつと一ノせ紀の玉津嶋の神。あらかじめうりやど。み  
ゆめ名不ぞとゆき。まゆくもゆきと。れきと。かくこの  
人のえをなす。元よりかー中ふ。窓櫓<sup>ヒテナガ</sup>甚を萬秀景とリ  
人。うづかせす。あの中ふは峰の神の考へ。そもふいと。玉  
津嶋を。衣冠服と。そと。袋ある。又少畠親房。つむ。左多。序  
ほふ。うづかせす。或おねどかくと。と。據あきと。し。又近き世  
か稚日<sup>ワカヒルメ</sup>かよこと。そと。絶もうと。そと。若庸と。そと。地名ア  
もと。の。うづかせす。今を。そく。按ふ。玉津嶋。神功皇

后をもべし。ま在も。まづ拝拜。玉住吉。神社四座の中より四  
ち。神功皇后。御多賀。一説アリ。玉岸嶋といつり。袖中抄小。故龙京  
亮被ヒナギ。住吉。神主國基云。住吉ハ本三社シ。オロ社ハ玉岸嶋  
神社。即チ衣通殿。シ。ほひいそくを経。信て和氣をぬく事無  
シ。今アリ。かく住吉。神玉岸也。玉岸の説。オロ社を。玉は嶋明  
神シ。ソレハ。おは嶋。神功皇后。御多賀。ゆゑ。此傳説有。一。若  
氣を即衣通殿シ。ソリハ。安らけ姿。説あり。之。得也。シ。さて  
又玉は。玉岸。和氣の神ト。ナシ。カモ。あは爾の神。ソリアエ  
シ。アベ。うれ地。名を。若といへば。ナガリ。シテ。又住吉を。和氣の神  
ト。シテ。南あさも。古の社。神功皇后。坐し。若乃廟の神。歌ト。出  
ト。

シテ。アベ。玉岸嶋。岸。岸を。西アリ。玉出嶋。うり。古  
事記。かく。やまと。うつ不物。浮の。うに。ち。生。め。ア。いづ。嶋。と。よめ  
ア。信。て。拝。ア。此。地。ア。神。功。皇。后。の。新。嶋。と。伐。ア。み。み。如意珠  
を。海。中。小。島。あ。と。行。ア。ま。め。ミ。珠。乃。出。う。地。う。ア。神。功。皇  
后。の。紀。國。ア。東。坐。ち。る。日。本。紀。小。見。え。て。由。う。り。か。く。そ。う。の  
珠。を。ね。あ。つ。地。う。ア。ア。此。皇。后。御。祭。れ。る。拝。ア。一。或。拝。ア。一。岸。  
ム。住。吉。小。玉。出。嶋。ア。リ。神。功。皇。后。御。庭。を。伐。ア。み。千。珠。滿。珠  
を。得。経。ア。珠。の。出。う。所。シ。とい。つ。ハ。紀。ム。エ。出。嶋。の。予。を。  
得。ア。シ。侍。ヘ。と。拝。ア。一。紀。ム。エ。出。嶋。神。を。後。ア。一。住。吉。ム。エ  
シ。島。に。う。り。て。う。う。を。も。エ。出。嶋。と。ハ。ソ。ア。き。ベ。シ。神。拝。き。住

吉社、お舍、社政祝、隼も玉手、さふる君がくわり玉出め石をかやつ  
ぐる光れまちみせとくらべじ。又或送り、千珠備瑞ハ紀玉  
日前あ小納す。といづこしも。うきもとくすてかげ。日あみ  
ハカと。名美の湾のあすりあくへ。そのみは鳴も。日前吉  
の捨社うちわーうば。うけ珠乃。玉は鳴たりむる。まぐへて日あ  
宮小納すとハ云つて。も捨社うちわーと。さハ得て。くへも。したの  
よだを含みて考ほす。玉は此の神も。既ひあく。神功を后取  
めぐく。やうそんといづ。此考へうすと。おもを。今も。がまつて。そ  
て歩きとげ。あまと。うら。うらふの人も。ちうた。みゆも。

ぬくま。此ゆきハ。さとく。甥う。長弟忠睦と。りあがえりく。

つまめへぢ

新古今集流。行すら信西の。うの向まみ。づまめへぢと。うふ  
うく。ハ。紀の。ふ。熊也。ふ。ね。ま。ふ。牟婁。忍田。き。う。海。べ。を。む。  
能。也。う。歩。き。む。り。と。走。ち。る。べ。ー。此。と。伊。勢。す。で。ほ。り。き。も。く  
確。づ。く。ひ。小。ゆ。く。ゆ。き。ゆ。ふ。づ。ま。め。べ。ぢ。と。ハ。り。ま。べ。ー。今。の。信。ゆ。ル。  
大。演。疏。と。つ。す。き。り。ゆ。き。ゆ。ふ。づ。ま。め。べ。ぢ。と。ハ。り。ま。べ。ー。今。の。信。ゆ。ル。  
と。と。集。ふ。も。く。く。り。又。而。り。法。序。の。ら。家。集。に。い。そ。つ。べ。ぢ。の。豫  
の。ゆ。え。と。あ。と。け。き。め。と。か。ま。べ。ー。と。ゆ。ド。ま。う。り。

紀のゆのゆ

新ちく集神祇、新かうすとおみわゆるまでやる御のうそ  
いつきめ、ちる歎ち絶のま名前歟。園の村の奥ふ生て。いゝを  
修路道の一場所にて、ふるき不役、小角<sup>井</sup>天墨とひらり。篠籠の  
木乃、多小若経了と。ドリ。今そふ。本あれをかづ歎とあ  
ふきがのうふうりて。後ノ一月をもふこと。れもゆきいす。

あきひの雨　吹上のもあ

は集難小葉宗信正。引うつ風ぬきの雨ふやううびのちうどう  
きのふううびべき。此う。あ葉ふ。酒まふ。紀のちふうきて。まど殿上も  
かうきてとうと。又ち和ぬ達み。左右京。かく家干はゑう。亭アあのミ  
かぞふ。まくふうり。ぶつまくるみる御キしむりと。故まえ。申

は風ぬまかの雨う立信乃ねうりふまくやうれもあづまし。又  
盧主鷦鷯紀りふ。紀の風の吹上の傳う立。又まく。月つてあかう。し  
びも魚ハ。ちくつゆふ下う。行まよとつひつくも風く。とくめ  
こづらまくも衣りつきて。うごもぬきの雨うあくまじ。月のうそ  
のあくまやうかく。信乃まきうにあくまを見て。月に伝う。海をう  
えうりたやとあけのねうくめあくま。うや。とくまねゆけぬ  
の角う。紀のあくま。の盧主めうかふうれど。吹上の傳の一あくまを  
ぬとあくま。風の砂を吹うひうして。ゆき集<sup>井</sup>のまく。風の砂を  
あきらう。とば吹上の傳う。西風ね風をさぎて。吹ま。白砂をう  
く吹うて。一あくま。ふ吹あつせて。ふをなす。又うづうざふ。あま

ちじて。ゆきめ平地とおり。或きめのまみ。まのとくらをうふ。こ  
とくうり。とよふくらそ。峰上のもみとハツアシ。公はつ。集ふ。峰上のもみ  
とくうりぬ。峰のゆをあきうど。ば。崖のもみじくやくし。ぐふみす  
もみがいぬ。石がり。ちく。ちく。歌はふり。峰上。峰と山のつゝめて。信  
のまみ。ごをえき。うづ。むか。うきとやへう。為めの。峰上の峰  
のまみ。ゆきまみ。ぬか。かく。まねね集あ。みのまみ。みのまみ。ゆ  
上の峰。峰つづり。うる。紀の。トト。山。うき。うき。今府城の西。  
ゆかふくと。ちひまた。墨の。うきと。うきと。そのわく。りも。峰上のも  
ゆ。うき。ゆき。ゆき。ゆき。ゆき。ゆき。ゆき。ゆき。ゆき。ゆき。ゆき。ゆき。ゆ  
き。ゆき。ゆき。ゆき。ゆき。ゆき。ゆき。ゆき。ゆき。ゆき。ゆき。ゆき。ゆき。ゆ

かにまくは。ほし。和泉がるハ。ぬきひよそ。候字も異し。紀のまうハ。ぬ  
きわとちべー。又紀のまあ。日ちん改乃海きわも。あきわとつあせのあ  
あきとどり。じりのうたふよりあくまへ。うとみ、うじばとほじあく  
うと。け中ふ。あのうと。川の砂を吹あつしよ。争ひハ集井こと  
そく。あきわとちべーとつまハ。ほらとぞ。物をうつむと。おと  
つあくま。まことハ。候まも。おとハ。まごとがく。おとがく和泉の  
ふうきく。

大藏文書

金剛集多戒集於どより向たり。大聖は能仰そりと云ふ事也。  
又。金剛山が南か北か。深禪。ども。深山より出。し。今ハ神山之也。

ちじせとつよ。黒人のひすハ、金まゆより、釋迦<sup>シカ</sup>が嶽まで、十三里。釋  
迦<sup>ジンザ</sup>が嶽、もと神山まで、六里。まうりとし、峯中の祠あ。一里を一トなび  
きとつひく。大峯山はまかばまで、七十五ねむきとつひく。そて俗  
うハ、金まゆと、大峯と云ひとど。そハ誤<sup>ヨ</sup>。金まゆも、もみけふ  
て、大峯とつひく。かの神仙のあらうへ、も載集の祠あ。みづけ  
らも大峯ふありつまく。神仙とつまく。そとうりと。とつ

かづらぎひ  
み紫の同

玉葉集釋を以て、其の文を考へて、其の  
月を以て、此書ハ素とほり下つて、其の文を  
竹子とす。其の文を粉

行乃訖。まよひて。やうて、うそをばて。いづまくまう  
かとうもあ。ソレへかとう。佛はほりへて。はまくらをひよべ  
きく。おとヤきふ。内陣うち。からあそ。一ひとひくとさんとく。  
かづき山。まねむら粉川ちめふか。風猛山カサラキとちよ。お紫集今  
の本小。かづきだらう。ほく。粉川ちめ村と。風森  
とつす。森かき。凡市。森もつて。お葉の洞と。ちめの多武峯。小錦  
端洞と。行ふ。し。と。バ。ちのえ。即<sub>ナシ</sub>粉川ゆ。からむ。多武  
峯ゆ。むごと。まよひ。はまえと。ほく。紀伊ち重。ゆく  
り。りく。康平七年六月。粉川ちかと。あ。ふと素まと  
改毛。大和ノ。のうて。多武峯か十改革。ふくやひく。まほく。和泉

ほ泉南郡松村にて。寂靜院とよもじゆもて。住るふくらま  
武家の修羅洞の秋の色め。よもじゆもて。あがしろれを。をふ闇  
伽サをほと。うつぶかへではあとうみて。丹葉井となづきりと  
ぞ。嘉保元年十月十五日。そこしてみおうひす。粉川もの旅記  
かくちり。お茶の同ち。逍遙院友め。ま武家を酒のひうちと  
よすまう。とほく。ゆゑあるなり。

紫め名高浦

名るの浦も名美だ。今ハそのより。海士郡小入まう。べうも  
名高うと。名方うと。小里かて。薦白ねまく。ゆつ方へ。わる  
ぬるふにて。くわゆる。一多つしほ。一人がいふやう。名るぢ里

中ふじくまた川とよからひまき川のとしとよ。とハいくふう  
（きく）くねるを。かく。紫め名高ふくらむて。事ぬむゆづと  
もる名高行じう。せうもふらしきまえうきこと。が  
のとじきとば。又一人。ぶのとかのあくらハ。とぞくゆきくふ  
うううれぞ。ひよとく行あいとしきてんと。いつび。後ア  
又まくらーを。かがりたまハ。一日あまゆめ。まくら。あきくふ。うの  
川のと。里おまくべり。うきばゆく。お此と。小。むくさ  
き川と。よ川や。わると。ひく。バ。うき。うき。かて。ちひまき  
信と。小。橋うきく。あを。こと。うき。し。と。そ。と。へつ。と。ぞ。か  
ア。う。まう。う。く。べ。や。と。う。う。う。ハ。た。う。う。に。ま。う。ざ。め

アハ。かることゆき名あバ。ナ万葉小もとまたの名す  
とつぎとまハ。いすへこのヨリと。村崎アシソシテ。そとね  
る名の浦と。すくらわうド。ちまどうち川の。あ下人  
げて。おとバ。トトウふきつひざきを。が。こうか。おせじ人。う。よ  
く。も。づ。り。か。

黒牛原 薩白 玉鹿山

黒牛原も。今ハ馬江といひて。あらひの方より。熊壁アシマツ。おどるち  
ぬも。黒牛平深名高アシマツ。とづき。くわちひつ。移りて。三里ミサト。づ  
とも。町づくりて。物。う。森。も。ざ。つ。べき。ふき。つ。に。置。な。そ。  
皆入海の。れ。う。ふ。て。ま。す。き。う。黒牛。あ。ぐ。ハ。ふ。う。も。か。く。う。く。ま。

アラ。ぬ。し。此。う。り。ち。ハ。名。萬。葉。歌。う。り。一。印。い。ば。海。ち。歌。と。う。  
け。紀。の。ゆ。れ。或。書。小。け。よ。の。歌。べ。イ。む。く。い。と。大。ま。か。そ。い。ろ。黒  
き。石。け。牛。け。う。ま。ち。ー。う。び。き。て。游。う。り。見。バ。う。く。と。お。ぬ。見。八。鹿  
き。う。み。か。う。つ。の。う。ト。う。や。う。く。お。ち。お。煙。き。ゆ。ま。て。そ。ぞ。お  
ア。お。る。そ。一。う。せ。里。人。ぞ。と。あ。く。く。や。う。て。ほ。り。行。ハ。ま。む。と。せ  
ー。か。ご。大き。か。く。て。づ。ひ。か。え。わ。り。お。ま。で。や。こ。む。そ。今。ハ。う。の。行。  
可。ま。で。里。つ。づ。き。て。う。め。不。と。民。め。家。の。地。下。ふ。者。よ。ー。も  
歌。ー。も。正。亥。白。と。は。ド。歌。ー。お。も。お。里。を。と。お。き。て。お。お  
お。ま。う。う。ゆ。け。バ。お。故。の。ゆ。か。く。か。て。お。も。う。う。村。と。お。き。く。そ。  
そ。と。お。お。お。五。み。く。ヤ。て。お。社。も。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。

聖き御す。九十九町の王みくやに中は一つ少し。後ふ熊野の一乃。  
ち居ともざりある。はて十八町がほど。巣臼の古坂をのぞりて。  
もじま小ちうり。まのまく。西のうふ。伊所。差とひある  
もじかへ。熊野佛幸のそり乃。頓宮おはあさくさん。どつ  
くへく。いとえく。おき。きよた。おほかざき。鳥田殿  
ち。須佐神社の神主。おね守岩松。時侍ハ。がのびをへふせと。  
侍や。鳥小もすうでかて。とがくして。そとづまく。一走や  
どうくらう。そのゆきく。上のうごとせあくハ。えくわく。めり。  
此きこの侍社も。千曲<sup>チクダ</sup>と。山里村。山陰ア。もくせ経ひて。熊  
野きたりハ。西の方へむきて。鳥田川乃川をひそ。くぐりゆく

西し。伊トガ  
系山を。熊野おきの坂か。ことも至田殿。山乃藤  
ノ。系我の里。又系我。王み社と。ソモミト。至田川のうかりよ  
ア。此山みうみぬくふ。ちく。スレ。カド。かく。とまでハ。えね  
せまう。このひとが。里の。林。木。中。山。お。下。ニ。人。ぶ。の。が  
弟。ふ。か。ち。り。小。う。れ。志。う。が。弟。ア。ま。し。そ。ド。ウ。て。行。ひ。る。ば  
り。と。う。て。弟。榮。か。の。コ。く。ち。る。す。た。な。ふ。く。と。後。ア。と。う。り。

妹背山

背のふち。書紀の孝德天皇が。毫山。畿内の坂を定め。テ  
テ。小。南。自。紀。伊。兄。山。以来。と。て。兄。此。云。制。と。訓。注。と  
り。と。て。弟。榮。か。の。コ。く。ち。る。す。た。な。ふ。く。と。後。ア。と。う。り。

そして。此ふとあそひく。鴻羽すらあかもり。妹山  
といふと。同系の毛むう小二首と。十三の毛ふ一首と。又。  
含せて。毛ふ。妹背のふ。よろハ。毛をす。毛をふぞく。かくて。旅所  
の社中。妹背山と。紀風ふ。吉井川をへどく。妹のふせのふと  
三つの山。うそそし。萬沖勝地吐懷篇。妹背山。紀の川  
をへどく。そふち北ふ。妹山と。あかもり。紀の風。或書ふ。  
省ふる。伊都郡。鷺勢田庄。省山村の西北から。妹山と。省山村  
の二町。江より南。まみ川乃。あわづとい。宣長。はく  
思ふ。尼山と。毛やく孝德紀。ふそく。万葉物語ふ。よあ。故も。毛  
う。妹山と。足山。ふつまて。と。さまうきて。いを。お

あゆて。穿ふ。毛り。ふらふ。あく。ト。と。ぞ。あふ。そ。ハ。万葉三の。お  
ふ。か。ふ。そ。く。ほ。し。き。妹の。名。げ。き。の。山。ア。か。き。ぞ。い。ふ。ら。ふ。む。又  
引。せ。の。ふ。を。妹。と。ハ。よ。バ。ド。ね。ど。毛。の。ふ。と。い。ふ。名。ふ。つ。ま。く。妹。と。い  
ふ。こ。を。と。お。そ。と。バ。又。妹山と。つ。ま。く。毛。か。う。き。て。お。乃。ふ  
一。こ。せ。ち。お。べ。一。と。バ。背。ね。山。の。す。ハ。ふ。ー。ふ。ト。り。と。ご。妹  
山の。す。そ。そ。ハ。ま。く。て。よ。う。う。そ。そ。ぞ。と。ご。妹。と。せ。の。ふ。い。り。せ。の  
ふ。或。も。妹。の。ふ。せ。の。ふ。う。そ。て。假。ど。の。と。よ。お。る。皆。毛。の。ふ。ふ。つ。ま。く  
の。山。の。あ。や。妹。ふ。と。い。つ。ご。と。す。て。毛。の。山。を。い。そ。が。と。と。と。  
妹。の。ふ。と。の。と。と。お。る。ハ。な。す。せ。れ。毛。ふ。お。道。ふ。ア。妹。ふ。き。と。い。と。  
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

おふせのふうじくふもとす妹のふことゆるせやもうち橋よそ  
をとりうちも尾ふとこやう時ふ若川あどふがりそち野橋をと  
くせまむとて、まのあめりかうべる山を、かうふ妹山とて。かく  
とくお橋べー。かの紀の川とそとつうおま。二上山も妹アを行ひ  
うとよおちも。二上山ア。まごふ妹とソガ行ひかきうねど。  
まごつあくふとねそまうきとさハトみつねとばきのふなまも  
兄のふとソガ行ひつまて、まごとソガべきことし。かうふ妹山とソガ  
ら。まごとソガちまきとソガ行ひ今ふつまで。兄山とソガ  
て、皆山村とソガまへあを妹山。まきとハーハモ。さざうね  
らを。まごとソガ上小引る神中かきどり。うと古今集めうふよ

アリ。あまくふいとねとば。浅いハナウグアカシ。勢冲カシぎいとやう  
も。波和カタハととくまく。の或あかいつは。こまやうねとど。紀の川の  
南のまふあわといすハ、づとのふをまくといすか。まかまく  
く。こハラホホ紀の川。川中ふ行ふをいすか。べー御ふ  
あり。船とうけ川をうごりうち。えりうれ。そひ川中なぐりも  
わぬまかちうき。船ふ生え。もひふの南の腰を崩すと。川の面おき  
とく。古今集めうふ行ふもて。面おき。ハジヒヤジヒヤジヒヤ  
つすや。又まびくつき。見系。舊傳カシ。名手は櫻のふ  
りうてうく。一株。首ふけ取う。バ。むくじ。妹山やうべき。小妹

なきうゆふすべ。又ちうたすみ。うまきのふ人のいもく。だす  
泉の流れてハのう。お忙ナハ。トシメノ山の中からとあり。  
諸おもてを系。近ちあはう。まもとをぬ。せの川乃とねりや。  
ひりせの山の中ゆく。うまきの小門。申かゆく。う  
きの川もえく。内堵ナヘ。いかせふえく。うやうめふよむけ山  
紀のふかうづば。吉やあらそ。決定ナベ。万葉山紀の風と  
よもれ。もととハ名の川中野の山を。まがへる。寝見る  
うとひ。かの貝玉なども。吉や野る。うとこといつハ。みか後  
のえふのとおづみて。ま葉をよく。えんざる。むがと。シア葉のふしも  
き紀のふ野と。行の野ひも。今も吉野に。それこそあ

あき。おもい集めうふつまて。後か物づりきふを。そよとひげ  
きくものも。そよとへたす集む。ながきてへのあは。うちあ  
せしのせの山アシも。小もうちす。うち移らす。又日老アシ。き  
の川アシの端と育めふ。あとうかふらうて。株背の山アシ中ふる  
るとハシヒ。よやとまねん料ふ。紀の川を。岡川あとば。若せの  
川ととととおきす。まし。又まのあか。ドリの川といひ。あつてま  
わらわ。お宿アシ。その川を。歌とも唱へ傳へる歌アシ。またてあ  
ふ名前アシをよみ。と。まのそくはかり。うてそくま方代よゆる。ま  
つ。後せのといへども。どうりぞうとまべき。わき。まくぬふのす  
船アシふとくらう。い。へのも。と。おゆき。うふとまくまくはらうて。あ

やか。一。まくとまく。まくとバ。まくハ。まくと。の考への傳アシ。お  
とぐと。と。と。と。けいりせふの。アシ。おう。と。と。と。と。と。  
ウカ。おう。集め。うかの。おづみて。あつハ。と。と。かく。う。と。と。  
又。ウカ。集め。お。近處の。ほんと。の。と。の。と。の。と。の。と。の。と。  
と。せ。う。と。の。と。の。と。の。と。の。と。の。と。の。と。の。と。の。と。  
う。と。の。と。の。と。の。と。の。と。の。と。の。と。の。と。の。と。の。と。  
あ。の。と。の。と。の。と。の。と。の。と。の。と。の。と。の。と。の。と。の。と。  
お。ハ。浦アシ。お。浦アシ。まくと。使アシ。ハ。い。と。う。お。べき。

紀の。ま。名。ま。と。の。と。

待乳アシ山アシ。大和の傳。紀の。伊都。故。角田川スミダ。ハ。待乳川

のとねべー。此川みあともひ。葛嶺山の、うちうりむて。北隅田  
庄を流きて。まみ川かあつし。紀の宮ハ。新島モ。より。まみの  
名島。歌ノコサ。雄山か在て。南のゆりとね。山口村から。神  
中ゆか。雄山の宮もと。行り。山ち。宮と。つも。此宮めと。歌べ。  
名島山。紀三井ち。山。飽等。宮も。海士。歌努。田浦乃。山お  
方。小田倉崎と。あらす。是こと。宮人の。いし。傳へ。山と。吹上。宮  
ハ。山乃。西南。山。山。浦の。ゆ。雄水門ハ。今。若山の。内。か。湊と  
よ。西。小。せ。町。といふ。是て。蛭子社。わ。き。小。雄。え。芝。と。よ  
あり。五。鬼。令。ね。薨。ま。く。跡。じ。い。づ。小。せ。町。そ。あ。も。、を  
雄の町。といへ。蛭子社。く。吹上。社。そ。あ。ま。し。並。べ。ゑ。と

又。或。況。況。ハ。吹。上。社。も。宮。戸。村。の。矢。の。あ。し。も。つ。り。難。駕。浦。ハ。  
海。士。歌。少。て。難。駕。也。く。て。音。き。不。す。も。中。か。も。浦。乃。海。の。方。か。  
難。駕。浦。と。り。あ。ま。く。き。び。く。う。り。難。駕。浦。う。る。べ。浦。の。初。崎  
八。角。崎。中。ち。椒。村。の。八。町。ば。う。り。海。中。小。地。の。崎。と。り。あ。き。東。西。四  
町。あ。り。苗。小。八。町。を。う。り。の。崎。し。ま。崎。の。三。町。ば。う。り。西。か。又。崎。と。て。  
仲。の。崎。と。り。あ。東。浦。五。町。か。苗。小。八。町。ば。う。り。ち。此。二。つ。の。崎。と。浦  
の。ち。川。崎。と。り。あ。小。鳥。ス。テ。手。持。ゆ。き。生。田。歌。山。保。田。ち。小。推。手。村。と。り。  
あり。こ。き。う。ま。村。ち。伊。歌。歌。乃。歌。少。て。山。の。あ。く。し。白。崎。ハ。日。あ  
歌。衣。奈。也。夜。大。浦。の。东。苗。方。か。衣。奈。ハ。懷。と。り。あ。く。も。社。の。旅  
記。う。白。崎。と。り。あ。と。見て。う。三。穗。の。岩。を。ハ。内。歌。三。尾。村。の。ち。み。町

をうち東海の海べより至る。巣をめ中ふ。石の親翁の像あり。鷦鷯を  
のうち日うち川 塩金浦のうちうつて。ぬの海べふ。一里をうちのちまね  
ゑきて。和田松あくつづけ岩盆ハ。その西の傍シ。野崎阿胡根浦ハ。  
内野崎金浦の海ふ。野崎里うち。その海べを。ちと称の浦といひ。  
貝は多くとうて集まる所也。切目山ハ。内野崎金浦の海べ也。切  
目坂切目浦切目村あり。山々村うち一里づく東山し。村の少ふ。切目  
玉ふ。社り玉。磐代<sup>イシロ</sup>。内野山。切目浦も。切目川も。波小磐代  
きり。而岩代东岩代とて村玉。岩代玉。社。海べよぢり。ふ里浜ハ。  
岩代の海のきとり。南<sup>ミナベ</sup>がままでのうちど。一里半むくうちむくうを  
りふむ。元弘元年七月三日。大地震也。きのふふ里の濱。

竹よ町<sup>タチヨマチ</sup>。うちうちうち陸くちうやうづ。うちすじふとく  
さり。三名<sup>ミナベ</sup>於ハ。岩代の海ふ。三名於村みかで浦あり。その十町  
うちうち海中小<sup>コトコト</sup>。ここ廉崎<sup>ハサキ</sup>。また三名於の海ふ。岬浦  
くつかる者て。恐磯<sup>ハシ</sup>じ。そこヤでハ日うち。恐<sup>ハシ</sup>とくらうらうと。牟  
婁<sup>ムロ</sup>郡心。磯間浦ハ。因<sup>タナ</sup>の王宿村の海。神<sup>カミ</sup>み瀬<sup>ミセ</sup>づきふわたり。神  
崎<sup>カスガ</sup>。うちうち一里<sup>ハシ</sup>うち海中<sup>ハシ</sup>うちうて。がくまうとくづ。白良<sup>シラノ</sup>瀬<sup>シ</sup>。  
陽<sup>ヒ</sup>湯鉢<sup>ヒツボウ</sup>ふと。脚<sup>ハシ</sup>とくのうしづふをて。墨入<sup>ハシ</sup>白瀬<sup>ヒツボウ</sup>いづか。け瀬<sup>ハシ</sup>  
のうち砂<sup>ハシ</sup>。をくんせバ。音<sup>ハシ</sup>めぐづ。神<sup>カミ</sup>翁<sup>カミ</sup>ハ。おもとく二町<sup>ハシ</sup>うち  
东<sup>ヒタチ</sup>海<sup>ハシ</sup>。小<sup>ハシ</sup>。社の說<sup>ハシ</sup>。天照大神<sup>ハシ</sup>。うち倉下<sup>ハシ</sup>と。二神<sup>ハシ</sup>と祭<sup>ハシ</sup>  
とくづ。石の階<sup>ハシ</sup>を。六<sup>ハシ</sup>うちうちのうづて。上<sup>ハシ</sup>ふ堂<sup>ハシ</sup>まで。地翁<sup>ハシ</sup>の像<sup>ハシ</sup>

置ホリレヒシテ、ミタハ神倉權現ミツヒムカニシマカハ社ハ、アラシト、アラシう  
のうち倉下今ドの、アラシ社歟を以トコロ一地トコロミ、アラシシトモアラシ、熊野村アラシ。  
新アラシあふ。上熊野中熊野下熊野アラシとて、三村アラシあり。三嶋アラシが崎アラシハ、アラシ  
あとうアラシ那智アラシへゆくとせ海アラシべし。新アラシトアラシ一里アラシオアラシ行アラシきて。走アラシ  
一きアラシに而アラシ。佐野アラシハ、佐野村アラシりかきて。三嶋アラシのつべきアラシ。佐  
野アラシも、村アラシセハアアラシ少アラシわう。玉アラシの浦アラシハ、那智アラシ山アラシの下アラシ。粉白浦  
とアラシアラシ。十町アラシばかり西面アラシに。離アラシ小海アラシとアラシハ、五の浦  
の南アラシの海アラシ中アラシ。ちりアラシふ岩アラシらとバアラシと御アラシソウアラシ。ベーアラシ。ミカタアラシ  
湾アラシを。熊野アラシ庄アラシハ、那智山アラシの下アラシ。あとうアラシゆく。海アラシのさ  
を。大き地アラシり。まのろふ。上アラシ村アラシりかアラシ。海アラシ中アラシへもくつき出

トアラシ嶺アラシ少アラシて。塙アラシの山アラシ嶺アラシと。塙アラシ浦アラシとアラシ。三前ミサキ神社アラシあり。  
少アラシ多アラシ名アラシ余アラシある。け而アラシの海アラシの、のびりアラシ波アラシくアラシ。御アラシ。年アラシ  
主アラシにて。片アラシ御アラシ。島アラシと。ちやの備干アラシに。くアラシ。ば。づく。あく。流  
おきアラシ。海アラシを。屬アラシ船人アラシの。いづく。ふそく。アラシ。有馬村アラシハ、新アラシよ  
可アラシ。方アラシ。伊勢アラシ方アラシ。五里アラシばかり。て。あお中アラシと。五里アラシの。庄町アラシ  
かり。苗アラシむ。伊勢アラシ。庄田アラシ。神社アラシ。又。老アラシの窟アラシ。大般  
若アラシの窟アラシ。い。け窟アラシ。山アラシを。ち。あ。間アラシ。周アラシ三町アラシ。ぞ。かり。町アラシ。け窟アラシ  
も。伊邪那美アラシ。子。御葬アラシ。新アラシ。あく。い。を。又。或。说。アラシ。火。御。も。も。い。アラシ。  
字アラシを。葬。新アラシ。不。アラシ。庄田アラシ。神社アラシ。少アラシ。老アラシ。窟アラシ。火。御。も。も。い。アラシ。  
楯アラシ。嶺アラシ。ハ。本。あ。庄。二木。嶺アラシ。と。アラシ。少アラシ。うち。一里アラシを。かり。海。中アラシ。

行りむくハナヘ取。伊勢と紀のゆの堺うちへと黒へいり。錦の浦を。ち崎を。も鷹村の一里ばかりある。けたむくハ志摩。おりへま。上伴。坂弓浦うちこねぐれ。皆もろの歓。そぞくけまのあち。ゆらに名うてうどとまく。万葉集ふり。すかひやくそくを。まみくま。づきの歌うり行つとどふ。えあくぬくめえうね。此曲をハからきねく。みる人とくも見る。ど。スミムル。おどしゆき。まかうする。がるもくかうして。まのぐくを写へ。あきうす中ふ。ぬく。歌うなまくかゆうと。おむかへて。まと行つねづく。おじゆく。かぎり。歌。まきうれと。えうひく。まきほど。此曲をハからうふきのふせ名和集の

やうかざなりぬ。おれ式うのと。御社。どもぢりき。ちくぐく。もんもん。もんを。そは。別。ゆる。と。と。と。へを。こう。ゆき。みかわく。一つ。

周武王死後。是き成王十三年

かく。是ち周の武王。アーナナニカ。みよ。やうり。あ。まみの成王。いや。十三。ちうり。と。ちうり。おと。バ。成王ハ。武王。ハ。八十。の。ちう。ふ。ふ。ぞ。者。き。い。う。へ。人。ち。ま。う。健。う。り。ふ。と。ち。篠。あ。き。ぞ。歌。い。う。ふ。ぞ。や。ふ。が。ゆ。く。ハ。此。互。も。や。く。み。ぞ。と。ハ。行。ま。く。き。つ。と。バ。お。孫。姫。む。の。あ。や。ゆ。く。も。ら。き。ふ。た。う。か。ま。せ。く。う。ハ。ち。い。う。き。老。ち。よ。ま。で。も。お。れ。好。色。心。の。や。ま

さうして聖人といふまでも。ちくらのやうに見え

道のひめこ

あくびあくして危もちむすりへ行のふうひうらむまきとちう  
き業ふまくに秘傳口決をどいふまちもがやくハ道をあく  
まくいあきくぐるのまかで。すとん。へうまくまで。おのまく  
うの物かして。業ふほうまくとまく。うとうめまくわきん。又  
うきよちもやすまくうて。まくまくまくまくあわくまくあく  
むくくめそなき伎藝めとねどひ。うてしむかくとむくうめ  
べうとど。うううくそうくに道よひ。うとまくべくもうくうだ。

道

道も高<sup>タカニ</sup>佛<sup>ム</sup>産<sup>スビ</sup>巢<sup>カミム</sup>日<sup>スビノ</sup>神<sup>ミオヤノ</sup>の產<sup>スビ</sup>靈<sup>ムスビ</sup>によりて伊<sup>ケ</sup>  
邪那岐伊邪那美ニ柱<sup>ヒ</sup>の神<sup>ヒメノミコト</sup>也<sup>シ</sup>天照大佛<sup>ミタマノミコト</sup>神<sup>ヒメノミコト</sup>の受<sup>ケ</sup>

行をせむふ道かとバ。かく美の國も。ちやのろに。あるゆくゆき  
あべききし。より人のおのづらさく。めおのまのこまづき道ふ  
まづくば。

藝の沖がうやくさきりやう

物のほそむつうきをひがふよりて。まも  
りまわしむ。まがとまえきを。勢中ひきをそそぐ。上まか  
て。よくとやくも。いつとおまめら。よくとあうて。せやまく。  
かまふまく。うごき解トキざぬめす。まくはいふぞや。まく  
へぞ遍照信ふの。まほやのうちほふ。もとより風をもとふ。う  
まくおきとばぐく。せうづべきをちかまく。まくよりて。が

一うつゆよくかまうりといつもぐいこまべくかのううきの  
あひよみやーめくすはまるこまくらうもふわあび。めくとか  
くまふこまうみくらうめくらきくとびく。くまふ佛ぶくの  
ほ釋ざくそそくうせねまうり。たゞくほうをゆくのほく  
とくすあち。ゆくせむくそえもひもむくぐくあき。そくくもくへ  
て。うちくそくあき。物ぞく。

かううのたへは世のうづくわす

力も、夏殿よりうらやまのきのよひ。何事も、まごふへ  
待も、うらやまひ。とあやしくて、うらやまじと申す。一  
やうなうらやまひ。さて、時代のしむぎひて、あそびるよひふくまえ

1. 一ツニソモド。禹ハ顓頊アマミグ孫。舜ハ顓頊グ七世の孫シトイテカ。  
同ド時小て。位をゆづリトウターハいつか。又伊尹ハ成湯セイヨウグ時の人ア  
ムク。もろカ伊尹トソヒー。湯グ五世の孫の太戊トソヒー。  
王の相シ。その五世ゴセの年。いと久ニトをいそ。アカムカキ。また  
周の先祖の后稷ウイキ。堯舜ヨウスング時ノ人トいつ。文王ハ后稷グ十四世  
の孫シ。もろカ年ナム。お歳年ナム。ナロアセナリ。いとほ  
きトモウキシ。ナムアムシメヘソヒド。さばうみの令トモウキ  
トハゆく。ぬものをや。うわくもナメヘル。もやくソウヒコ  
トホソウキカ。

成湯セイヨウグ誓言セイモンハ言又周の武王

りううーの殷の湯王。夏カササギ桀王をうずむく。民ハ誓言ヒト  
承詞セイシ。予其大理タタキセイ女云々。女不タナキ従タタキ誓言セイモン。予則孥ドリクガ女。  
とつトツをえきば。さくがな者あヤウタトツを。なつきもあドーもト。  
ナシタナシタ已ヨリ。ふちチくクうらラうらラの。も。も。 実ミ小民のむか。づヅナナ桀  
をかみて。湯ヨウをやひ。もくしんムクシン。か。か。承誓セイカ。ゴトハ。うべくもあド。  
も。又周の武王も。まく小民タチ。苦タチ。懈タチ。民タチ。糾タチ。をだタチ。  
ちチ。も。ナナ。箕カス子コ。立タチ。アタチ。王タチ。公タチ。べきタチ。けタチ。か。さタチ。せタチ。  
して。おのとト。も。を。アタチ。て。王タチ。公タチ。べきタチ。けタチ。箕カス子コ。も。朝  
鮮カシマ。を。う。と。ヘ。ハ。ナナ。後タチ。か。己ヨリ。愁タチ。を。歌カタ。そ。ウ。と。行タチ。や。走タチ。て。まタチ。  
も。う。多。圓カタ。と。ア。ダ。ケ。ヤ。ア。レ。シ。ミ。と。カ。の。り。う。ト。ア。ダ。ハ。

ちめくり。定ある主をもくして。君は義もくばゆか  
して。君をほうがく。あをうがく。若むきどり。天のうへとま  
づく。巧言コトヨシひきて。考へをうむきく。ふくまし。又まう  
した。人びとを。むく。うそ。おもやを。ぐ。を。まし。

當のまつづひ。又此を今めくらむ

當字コトナリ。行うじやう。皇國カウノク。字ハ。ゆく。よむ。多く。此と  
今と。ふと。用ひ。今。無も。然。當國。當。當時。當年。などの  
も。ぐい。此。小。此。而。今。時。今。年。と。よ。と。し。こ。と。字。め。義。か。ま  
ま。當。字。ハ。其。と。り。あ。わ。く。り。て。尚。少。あ。あ。ど。ハ。字。め。ま。ま。ま  
ま。ま。ま。ま。と。あ。と。あ。時。尚。年。假。ど。ハ。字。め。ま。ま。ま。ま。ま。ま。

あ。小。日。布。紀。アハ。その。と。訓。ラ。ラ。ム。ア。シ。リ。ム。ア。ハ。此。と  
レ。ひ。今。と。レ。ム。小。本。州。本。郡。本。年。本。月。假。ど。リ。本。字。の。つ。ひ  
ま。す。是。あ。せ。當。某。と。り。あ。わ。く。り。但。一。か。う。う。か。本。某。  
と。よ。く。り。づ。く。右。き。書。ふ。そ。そ。と。ど。申。考。ト。う。ち。と。形。く。べ。又  
此。寺。と。よ。く。漢。や。う。小。本。寺。と。あ。て。ハ。い。を。ゆ。本。寺。末。寺。め。本  
寺。か。ま。ぐ。ぞ。や。む。と。え。を。漢。文。ア。モ。當。寺。と。あ。と。づ。ひ。あ。る。し。  
ま。と。又。佛。が。と。に。ま。此。と。り。か。と。く。今。と。い。ア。と。も。あ。い。世。經。と  
今。經。此。宗。を。今。取。れ。ど。い。ま。し。む。づ。ひ。し。考。沖。が。き。の。ほ。を。ふ。げ。ま  
ハ。と。り。あ。ま。れ。今。の。う。か。と。り。ま。と。づ。ひ。づ。ゆ。ふ。ま。き。ハ。仏。書。ト。う。ち。ま  
御。し。この。今。と。ソ。言。伝。が。ま。う。か。ハ。書。ま。く。と。そ。よ。び。ま。し。

そとくうち今あひといすとぐいを呑ふり。げあひとじてち。  
あふるふ小引うらうめふ。まがふをうあどみあとばそをかむと  
をねふ。今ほうううアコトをば。せいもじし。うきあふまわ  
らざなし。

はゆふ黒うるまきあむぞ

家喜め言のむつとよひあとふ。考の喜とあくねる矣。  
周礼をもらい。檀弓下うんう。淮南子をもあんじ。玉篇をこ  
くへん。鄭玄をぢやうぎし。孔穎達をくえうどうとひく。  
ひも。吳音ねきバ。てとちう。越王句踐を。あつまくこくせんとよ  
むき。うりつきてうさし。子昂を。をかうとりす。扇子銀子罐

子あぐもぐひ少。うとれと。唐音<sup>カラコロ</sup>歌べ。字今は重喜にて  
ては。はうと呼。うとど。きとつ。宋元あとの了後乃考かぞ行卫を  
む。又天子の物へ行幸の時。さんぐ。坐。おもへはむ不を。行在取  
と。以ふを。おんざい。よとよむ。ばとき別かわんの。きふやるうへ  
あくび。行燈行脚。あどふあんと。ほじて。こまともむうへ  
重喜なるべ。へうは重喜ハ。平声の時も。去声乃時も。じしと。う。  
又もうううち。明の代の明を。みんと。喫色。重喜シ。今代の  
清を。もんと。つゆ。重喜の訛し。清。字め重喜ハ。ほそと。喫色。  
又の代のうが毛ア。鄭成功と。ひー人を。國姓爺と称ふ。この  
姓。字はせんとり。も。重喜ふをりんとり。を訛す。まこと乃

國姓爺と云ふ稱を國姓とハ當時<sup>ソトキ</sup>の王の姓をひき此人明の姓  
を賜ひ得たりし。爺ハ某老某丈もどりあ。老丈のとゞぎをもと  
多き事<sup>トシ</sup>。ちうま代<sup>トシ</sup>ぬまえ。おもふよつてあらう。じこもあまむ  
けふありうり。

まことにわが人の本の謚をいつて誤

を手記か。村上彦元義光が、方塔宮ふいづらわからぬりをすりて。  
まづ死むむとある時の句う。我も後醍醐天皇はオニの皇子  
え。といふたり。ちゆうを後醍醐のみよしハ。いまだよさゆく。ほ  
どゆふか。いざどう後の法諡をばやまき。多く人の心がとこばく。  
え。かくゆゑからう。史記の田齊、世家とひふくありふ。齊、ほの人

の哥ホ、姫モ采ル。昔ニ帰ス  
リテ、田常モりアズの謚アリ。此とモ主人のつまど在ホリ。不ぞ  
のちとしを傳キ。此もびひあリ。やうもあふれと。そハ志モリ。

某公某卿

公卿と云ふ者、古に公と云ひ、三位より上を卿と云ふ者也。また公卿とは人の名をつぶす。大抵のをば某公と云ひ、他に某  
より之後まじをば某卿ナニと云ふ者也。某と云ふ者も某公とい  
へるゝはゆゑくハからて云ひ、大抵をば云べて、何事をかかへ近院  
古有り、伊堂、寢白壁などあり、まれか、うそば名をつむがふをあ  
らぬうそばある、ある良房、大臣、忠秀、ちだねど云ふ者、又某卿と

りのとく。原氏物語。家元を御候るどふハ、一つもそぞ。行年中納  
え道雅三位をどりて、ゆきば事つゝと。後のとくとおもへぞ。  
さかへうじ。じよやく。万葉集。或部卿。友。宇合卿。中納言  
安倍。廣庭。マ。ねどそ。射。恆。家。集。も。が。む。と。も。の。マ。と。り。ふ  
みきと。これどき。ハ。じよ。と。あ。物。経。文。も。と。あ。そ。も。く。そ。く。ぬ  
ゆきと。や。今。思。す。定。あ。マ。家。隆。マ。ね。ど。以。も。し。より。に。定。家。中  
納。え。家。隆。二。位。を。ど。い。も。く。ソ。く。ふ。ゆ。も。も。く。く。か。く。名。み  
下。ふ。官。又。位。を。ほ。そ。り。ゆ。く。ぢ。う。に。ち。れ。人。乃。か。く。文。ノ。ハ。か。り。て  
な。く。し。く。も。あ。て。こ。の。と。か。く。ハ。に。ア。ヘ。乃。わ。け。る。と。よ。に。文。の  
例。う。い。の。つ。う。び。ふ。ア。ヤ。ミ。ベ。カ。ヤ。の。ツ。ム。ル。め。す。も。

第一のときそくの後とよくかむらへるのものあわせを  
くべきもがかる。

石をひかへテノミの生む

石見國邑知郡名金村といふかどあきやまをばり、黒人ふ  
づるをとりておまほ度のまじひ、近きまじめかて、濱田より  
古里からすと東の方、つく山崎をあつて、濱田の主の領ウシ  
シラ  
ヨシを地あり。ば  
るを、うそせ五ら間も行つたるをへ、又その近きはうりやも、大き  
きちひづれをかうるゝ事、いふ一へて、アホナハ  
ダ定年運ケ名二体の、う  
れとゆひ、うるをことむく、うり、里人達を、うへて、うそひす  
ちやう此をいはり、あ中、うつとも、あかふ別か社をも

てある。志は松原とナレトモ、此のあめ小篠、伊野がも  
うら、かくかの里へときて、ましくさしきつんとて、ひか  
をせてもわり。あ葉集之をむすめ。志都の石室<sup>イハヤ</sup>、<sup>シツ</sup>  
もとど。たゞ不思<sup>アム</sup>あ葉歌<sup>ハシガ</sup>、いふやうむ。うはうちとくめ。生  
石村主<sup>アメノトウフク</sup>あく人<sup>アツメ</sup>、<sup>ツノ</sup>りてんあめ宿人<sup>スルヒ</sup>、<sup>アメ</sup>て、ぐちゆかをそ。ゆ  
きてよきしもとくび、とくとくざざもふち。かのあ、御<sup>コト</sup>人<sup>ヒト</sup>へゆ  
くとあきふみがづり、かあきをかく。よしむす、よのく  
ひきりてとくべきものもあがむ。ちどり後<sup>アフタ</sup>の子<sup>コノ</sup>け人の、まうてい  
ゆべきまくらとあがく。称<sup>シメ</sup>を。かうくびあきゆ、うきて、もぐ  
たまなうくはまくも

尉馬の式社

和多都美神社ハ三根郷木坂村ニ在リ。神階從四位上今ハ八幡本宮  
トナリ。鳴大國魂神社も豊崎郷豊村ニ在リ。神階正五位下今ハ鳴  
首神社トナリ。能理刀神社ハ同々西泊村ニ在リ。神階從五位下。  
天諸羽命神社ハ佐護郷恵古村ニ在リ。神階從五位上。天神多父頭  
多麻神社ハ同郷湊村ニ在リ。神階從五位上。又主基社トナリ。宇努刀  
神社ハ左ハ三根今佐賀村ニ在リ。今ハ國府八幡宮の境内ニ在リ。祇園社  
トナリ。神階從五位上。小杖宿祢命神社も三根今三根村ニ在リ。神階  
從五位上。今座王社也トナリ。那須加美乃金子神社ハ伊奈郷三根  
マの塚山。南ハ三根今志多野村北ハ伊奈今小鹿村。今ハ那祖師大明

神とナレ。神階沒五位上。伊奈久比神社ハ伊奈マ伊奈村より神階  
没五位上行相神社ハ佐護伊奈二郷の場かあり。神階沒五位上。  
和多都美御子神社ハ仁位マ仁位村カ有リ。神階正五位上。今ハ天神と  
ナレ。胡禄神社ハ伊奈久琴村カ有リ。神階沒四位下。今ハ琴崎社  
ヒヤミ。胡禄陽子神社ハ同々同村カ有リ。神階沒四位下。今ハ郷崎  
社ヒヤミ。鳴大國魂伊子神社ヒ佐護。佐須奈村カ有リ。神階正  
五位下。大嶋神社ハ仁位。郷仁位村カ有リ。神階沒五位下。今ハ和多都美  
神社ヒヤミ。波良波神社ハ同々同村カ有リ。神階沒五位下。今ハ軍  
殿ヒヤミ。上件十六社を上。縣郡心妙。三根佐護伊奈カ有リ。  
の郷ミ。和名抄カ有リ。下。縣郡カ有リ。又仁位。カ有名抄ナハズ。カレ

タモ。先モ古ハ上縣郡カ有リ。次モハ下縣郡ヒトツアリ。高御魂  
神社ハ豆酸郷豆酸村カ有リ。神階沒四位上。銀山上神社ハ佐須  
久根村カ有リ。神階沒三位下。今ハ五所大明神ヒヤミ。雷命神  
社ハ久々阿連村カ有リ。神階沒五位下。今ハ八龍殿ヒヤミ。和多都  
美神社。國府カ有リ。神階正四位上。今ハ幡宮ヒヤミ。多久頭  
醜神社。豆酸ハ豆酸村カ有リ。神階沒四位上。做記宮ヒヤミ。  
太祝詞神社ハ興良カ志村カ有リ。神階沒四位上。今ハ加志大治神  
ヒヤミ。阿麻底留神社。同々小船越村カ有リ。神階沒五位下。今ハ  
照日權現ヒヤミ。住吉神社ハ同々鶴知村カ有リ。神階沒四位上。  
和多都美神社。住吉ヒヤミ。神階沒五位上。平神社ハ國府八

幡言の西の側より。神階正四位上。今ハ賜宮トナシ。敷鳴神社ハ。  
興良々加志村イ阿モ。神階從五位上。都ニ智神社ハ。佐須。久根村  
アリ。神階從五位下。今ハ矢立<sup>ヤタテ</sup>神山と申レ。銀山神社ハ。日々櫻  
根村アリ。神階從五位下。今ハ六所大明神トナシ。上件十三  
社も下<sup>ツ</sup>縣郡シ。多豆酸<sup>ツバ</sup>ハ。和名ねみ上<sup>ツ</sup>縣郡カ。佐須。興良  
郷ハ。内抄イ石<sup>シ</sup>モ。賀志。鷦<sup>チヂ</sup>知<sup>チヂ</sup>モ。上<sup>ツ</sup>文<sup>ス</sup>と小上<sup>ツ</sup>縣  
郡カ。アリ。多豆酸<sup>ツバ</sup>と和名か。郡内上下<sup>ツ</sup>行<sup>ツ</sup>。ヘウモ和名  
抄<sup>ツバ</sup>アリ。初め十六社ハ。下<sup>ツ</sup>縣。後の十三社ハ。上<sup>ツ</sup>縣郡アリ。  
トモ。ノイの事<sup>シ</sup>。以下<sup>ツ</sup>トナリ。ヨリかく<sup>ツ</sup>アリ。ム。モ。右の神社<sup>ミ</sup>  
トナシ。多久頭多麻<sup>タマ</sup>。神社。式<sup>ミ</sup>。下<sup>ツ</sup>行<sup>ツ</sup>。多字ナシ。又多久頭魂<sup>ミ</sup>

神社。式<sup>ミ</sup>ハ魂<sup>ミ</sup>。字<sup>ミ</sup>。名<sup>ミ</sup>。豆酸<sup>ツバ</sup>の酸<sup>ツバ</sup>。字<sup>ミ</sup>。豆酸<sup>ツバ</sup>。  
酸<sup>ツバ</sup>を誤<sup>ミ</sup>。多豆酸<sup>ツバ</sup>。字<sup>ミ</sup>。豆酸<sup>ツバ</sup>。字<sup>ミ</sup>。頭<sup>チヂ</sup>。  
山郷<sup>ミ</sup>。解<sup>ミ</sup>。の海東諸國記<sup>ミ</sup>。物<sup>ミ</sup>ハ。豆<sup>ツバ</sup>。郡<sup>ミ</sup>。考<sup>ミ</sup>。サ  
テ此封<sup>ミ</sup>。式<sup>ミ</sup>社<sup>ミ</sup>。小篠<sup>ミ</sup>。伊野<sup>ミ</sup>。彼<sup>ミ</sup>。時<sup>ミ</sup>。アラヒ<sup>ミ</sup>。モ<sup>ミ</sup>。人<sup>ミ</sup>。  
ある<sup>ミ</sup>。族<sup>ミ</sup>。アシ<sup>ミ</sup>。アヤ<sup>ミ</sup>。内<sup>ミ</sup>。走<sup>ミ</sup>。走<sup>ミ</sup>。アシ<sup>ミ</sup>。アヤ<sup>ミ</sup>。内<sup>ミ</sup>。  
不<sup>ミ</sup>。と<sup>ミ</sup>。セ<sup>ミ</sup>。アシ<sup>ミ</sup>。アヤ<sup>ミ</sup>。内<sup>ミ</sup>。走<sup>ミ</sup>。走<sup>ミ</sup>。アシ<sup>ミ</sup>。アヤ<sup>ミ</sup>。内<sup>ミ</sup>。  
アシ<sup>ミ</sup>。アシ<sup>ミ</sup>。アシ<sup>ミ</sup>。アシ<sup>ミ</sup>。アシ<sup>ミ</sup>。アシ<sup>ミ</sup>。アシ<sup>ミ</sup>。アシ<sup>ミ</sup>。アシ<sup>ミ</sup>。アシ<sup>ミ</sup>。アシ<sup>ミ</sup>。

お島あどひ。ちくらふ海中に。ちくらるるうとば。かうて西乃  
み。とまらだくわ。すがども。きく。うづびりきむゆき。お  
の。あお。うづくね。やぢ。う。ある。かくは。ほ。とく。うき  
き。あを。す。き。

にあくさかとつあらむ

今めそのみふんふはあきとゆとりとて。間はめぞみをへし。宿氏の  
めそ弟あけをあまくまは。うゑくちをうせあぐく。きて  
うちうそとべくすむかくちと。うり。ゆき。ゆううひ。

梅もやうがくのかる

ヨリカ  
サクシテアリタマヘテ、梅ハシナガルモトヨウニシテ、行キテ松ハ

と取次くもととひふす。ほお盛衰記ノハ。昔ゑあた。お國あバ  
トロアハシ。トミカヒバ。お梅つうへ。走行ル。バ。内ドは取テ  
カジテ。きのる櫻乃。庄うち繁に。うらがまと。根を。一柄が中  
か祐ふ。タマ。帰順が。さふ。梅を。うび桜。ハ。れぬ。夏至や。ゆくぞ。わ  
む秋の。ちかひ。と。ト。き。ト。う。も。此。ち。を。ほ。う。う。へ。も  
よ。や。う。う。む。ま。と。ど。け。順。が。と。り。あ。も。お。ま。か。を。わ。も。ど。り。く。ほ。

能之樂

西宮記相撲條云。相撲了テ能優一番と云フ。能優ハ猿樂也。と云ふ。近き号云能。トロの名ハ。云々。ナラベ。此

能、字ハ、音態、うべまふ。のうとソホト、シテトを得也。や。

### あやまち従文

今はモア。あやまち従文とひか物。シテハ、急状といづき。ほ  
書に過狀ともいふ。宇治接ぎぬ流からくもりがくもき。

### 書紀の本書一書め事

書紀神代、卷の後カタ、曰ドキサカタリ、異カタリ。別カタ、一書曰カタ。  
いくつも舉カタらし、そのうち左き後の書カタと、右カタと、あて  
を、こども、かども、きまれずして、そハ傳カタ。ト、今カタ。成。  
本書ハカタも、ある一つの古書カタにて、より従カタまつた  
ぞ。一書カタ、中カタ、ソムク小カタと。漢意カタ、ちかく、そくカタす

多うと、撰者カタもとて、ことかきをえどりて、さうひつて、かき  
はき、従カタもとて、ことかきをえどりて、さうひつて、かき  
あり。かく天照大神の太陽名カタ、名カタ、號カタ、大日靈  
貴カタ、との名カタて、亦名天照大神カタ、と、名カタ、次乃及  
ト。天照大神カタと、記カタと。初カタと、後カタと、遠ひカタ。天照  
大神カタと、一書カタに、記カタと。名カタて、お書カタと、名カタ、  
も。一書カタ、天照大神カタと、は、記カタされ、と。異カタ、傳カタへ、  
あと、かく、名カタと。従カタて、伝カタも、名カタと。一書カタと、  
名カタと。大日靈貴カタと。ことひ。行カタと。す。天照大神カタと、  
名カタと。かく、神カタも、と。と。も。又月讀命カタ、其

光彩亞ケク日ヒ云クととちるまれ。一書少モハひ名のみとふ尊ミコト字を  
書れ。と。ばう。も。かうき神カウキノミコトは。い。と。生タニス月ツキ神ミコトとの  
あり。そ。ほ名カウキの。ち。き。ひ。い。ふ。ご。や。又。高タカ原ミムラ産スビ巢スビ日ヒ神ミコト。世セの。ち。う。生  
小成コトモ生シテ。最モトモ。そ。き。天ツカニ神ミコト。小。ま。く。く。て。ほ。名カウキ。小。ル。尊ミコト。字カタミ。神  
武天皇タケミカツシモ。ひ。み。が。く。御齋ミツシヤ。一。ひ。て。道。臣。令。下。を。神。主ミツシヤ。と。く。て。は。ま  
祭。ら。せ。神。あ。を。う。り。め。神。か。ナ。ト。一。書。少。ひ。名。み。と。ふ。尊。字。を。か。き。神  
少。ひ。名。み。と。ふ。天。地。の。ち。う。り。え。の。隣。か。く。一。書  
少。ひ。名。み。と。ふ。天。降。し。ま。と。降。か。く。も。み。と。此。神。の。詔。令。ト。一。書。少。ひ。名。み。と。ふ。尊。字。を  
中。國。ナ。チ。天。降。し。ま。と。降。か。く。も。み。と。此。神。の。詔。令。ト。一。書。少。ひ。名。み。と。ふ。尊。字。を  
又。初。と。後。と。遠。へ。る。が。ぞ。く。此。す。ハ。縣。居。大。人。も。ん。故。な。事。つ。を。

正。あまの他神。うちのどく。あかひうて。ゆうじやく。ゆきあ。ひ  
め。べき神。あま。あま。成坐。始。うなづび。ふちよみ  
べき。さき。もや。だく。くわのとびのす。ど。撰者のやを。取  
を捨。もせく。もく。や。あ。か書。り。中。かうの。み。う。の。う。せ。が。  
ハ百。あ。神。と。り。を。ぬ。紀。ふ。八十。あ。神。と。記。さ。と。く。す。  
か。う。く。お。神。と。ち。け。と。べ。と。よ。古。事。記。を。と。ぐ。う。て。ま  
や。う。め。方。き。書。と。や。も。み。み。ハ。百。あ。神。と。つ。す。ぎ。つ。ゆ。や。す。か。と。ふ  
書。紀。ア。の。と。ハ。じ。づ。と。か。り。ハ。ヤ。タ。ヨ。ジ。ト。と。の。と。う。か。て。ハ。る。あ。神  
と。あ。う。と。う。と。ハ。ア。と。と。こ。ハ。い。ら。ま。あ。か。も。撰。者。め。ん。あ。う。と。う。と。う  
と。あ。う。と。う。と。ハ。ア。と。と。こ。ハ。い。ら。ま。あ。か。も。撰。者。め。ん。あ。う。と。う。と。う

承るるハ當代の天皇也。御名源氏と云ふ。あやま  
を。此八十歳。御ハづく形トナリ。あらう。いまと。おひえど。そして。やう  
の。ゆづしも。秋の底の文字。歌どり。伝と。後の。書。書どり。ハ。あやま  
書紀の。ミトナラ。シ。此。称。モ。古記ノ。ト。ビ。今。の。ち。か  
ソ。シ。タ。モ。ハ。百。萬。御。との。ミ。シ。キ。ヘ。ル。ハ。モ。ブ。レ。

人名を文字書ふりす

人の名を。書ふ。文字。書ふ。者。呼。う。人。ち。る。ゆ。く。ハ。時。平。大。日。多  
田。備。仲。信。村。光。安倍。暗。明。あ。ど。め。が。き。づ。り。や。一。後。子。人。後。成。定  
安。泰。永。隆。泰。暗。長。ひ。き。と。か。く。と。ド。こ。あ。の。ミ。シ。キ。あ。く。正。  
琵。琶。う。し。の。お。家。物。候。を。か。る。ゆ。き。く。あ。つ。ゆ。ふ。ち。ま。と。ち。み。

り。う。く。は。人。の。名。も。一。あ。ら。く。ハ。モ。ド。ア。キ。不。施。モ。形。ハ。苗。附。ミ  
か。よ。の。キ。モ。ウ。カ。リ。ナ。リ。一。ミ。テ。ナ。リ。

種。垣。姫。が。ミ。

また。小。薪。乃。下。薪。乃。老。い。て。お。ケ。き。の。あ。う。ね。が。像。と。り。あ。つ。リ。肥  
後。玉。人。ア。ミ。シ。ー。か。傳。り。る。ハ。か。の。玉。飽。田。歌。白。川。の。竹。り。九。品。山。蓮  
基。寺。と。り。も。あ。う。の。姫。の。墓。と。り。か。きて。古。き。石。塔。も。て。り。ま。で。を  
ふ。か。ド。ハ。ナ。リ。う。ち。像。と。い。物。ハ。同。郡。小。岩。殿。山。と。り。あ。観。音。と。ま  
さ。き。の。岩。も。け。あ。う。の。山。を。乃。ぞ。見。ひ。づ。り。ほ。き。か。く。も。と。つ。り。此。死。ハ  
う。姫。乃。傳。く。信。ド。そ。つ。ゆ。か。す。も。と。う。な。れ。こと。り。ひ。つ。て。そ。の  
あ。う。ふ。山。下。度。と。そ。ま。づ。く。じ。び。ふ。立。ト。う。ト。而。こ。と。つ。す。ち。と。

行ひ又してか乃佛あらむきへまくと、井も行ひし。されどか  
のうりゆきよとひが像を、まくまくいつそ見ゆねるべーと行ひま。

トモヤま

今、俗ヨコトちに、トゞとやまほえとりあそび。核半と集の津樂す。よ  
ともひの人アムラムラタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタ  
物音花らをあこづけよ。中にとどきとりあそびまし。よもや万  
乃人。上下やまとまほえ。

卷之三

あやかよとひの泪。残きる奈難あ。風もやいはせぬ。着紫むともと  
えがわやうきやうれん人乃くらむ。

目錄

日暮乃よひ。まむ物語ちる。毛のきふ。物のくさ。かまくらぬ。柳  
管ふ。いとまくらぬやうと。づき。

研  
文

日書の後、先に、清まへ乃はもとが老と、うハ、僕ヌソカシ入レ。

ج

ヨコト  
後もあわせときどきうむらの物がうち角く

卷之五

内ド物語本筋を考へるにあらゆる所をそしも

引物

物をりと馬を牽て贈物をもとし。北山  
折大饗、係小次尊者、牽出物馬二足、若尊者好鷹者、  
馬一足、鷹一隻加犬、  
あざくらふ。

相撲前二日の儀

同書、相撲先二日の儀のそろひ。次相撲人進出列立御  
前大將隨天氣仰云々東向竹次仰北向次仰罷入祝。  
次相撲そぞり。今のうのつともす土俵入り。これかくり。

百多遍

百多遍乃念佛とりと。萬物無能の。おめうがりせむべからり。

ゑ隆マサカドアシナシビキナリ

古今著聞集かづく。壬生ニ品ゑ隆の轟かて、かく人のる滅。男不販  
そす侍。隆祐給はみよかおててやぐかの終後加冠ハーナと名  
をば何とうつべども。さくまき浦おつまぬニテ為後とす。  
田舎ざくらひ等て、もくもくてりゆきよを、んくわくひの、もくそかくり  
け。為後が父圖書、乞あひ込きて、いふ汝、かーぎをばすひが。殿の  
底名のをすりよかせねくにへだ。つうでうさとすらとくぬとて  
べきくわらふにとくかほとをばやひくといれて、とひととを。殿の

古名のことをばかうそとすまうまゆきてひへそあもスミテヤレ  
とと。陳ドムトキ。比鳥のす。かの卿きうれて。入鳥ナシヨリモ取ん。  
神をねねがむらひを称号のたまひとくおむす  
まめん。神をなむがむとあらひをす。ハ、ク(モ)くろう。うれすをとてり。  
まははどうくか。しもかよもすみかーと。うく。ど。よ。乃  
きしづ。くきくく。め。つるでのく。あらのと。と。う。う。き。や。ま。ふ。う  
さめで。まと。まと。まつ。ざき。ま。び。や。ひ。ま。に。ま。へ。だ。と。も。ち。そ。う。ふ。ぞ。る  
むと。も。る。日。や。ま。く。や。ゆ。此天地萬物。乃。生。物。也。始。り。も。又。む。く  
今。せ。ち。ゆ。は。大。き。小。き。わ。ら。く。は。事。も。人。乃。オ。の。く。へ。く。ひ。ゆ。き。施。居  
ぎ。ま。う。わ。ふ。う。も。も。り。く。く。は。す。も。も。と。ぐ。く。諸。の。法。を。ぐ。く。か。う

まよひのせきをばまれて、なべみ人、さまで  
ひ乃まかみのまどろり。心をかくして、よろげふと加くまぐる人を  
くがくゆびぬを、やくそくすくめ外代の出来ごとに嘆  
ても、いとまきに世界も、むうがくらをきく、がど、よそをかの  
おひとく、そは皆今の中、おのぎおこらへあくと見る。左等と  
をおもひとがくび、うちもかうべき、おの社 楽事カラワサもあく  
へきを、かくうりゆで、おれ清代かくとも、もうくのあき、お乃是社  
ぞとひ、うくわくまちへまちば、あやめをもく人のゆが、行ぬ  
人乃、さあつてこむと、やまくらをうけと、まくのとお、かく  
ふきのまくらを、うめくしもと、くのとお、うどばく

のうきよのうけとせうをもとめらむから。ま

がふとばしたゞまくしてかん。

はなむけ代のまへゆすあらう

おのとしのうりそくとが節

（印）

玉か月よ弟に刻三冊山嗣

寛政十一年己未二月 覆行

野田藤八

林伊兵衛

蒲生金七

林安五郎

書林



